

8月ヘルパー研修報告

平成 29 年 8 月 8 日(水) 9:30-11:30 北山ふれあいセンターにて

参加 ヘルパー 20 名 職員 13 名

文責：柏原

*はじめに

今月は「アクシデントについて」をテーマに、檜原岸本職員、鷹峯芝山職員に支援中のアクシデントについてグループワークを交えて講義をおこないました。

今回、アクシデントに関する研修ですが、普段「ヒヤリハット」「アクシデント」を報告することに抵抗感を持たれている方もいるかと思います。しかしアクシデントは起こるものであり、なぜ報告が必要なのかを考えていただくきっかけにしていければ幸いです。

1. アクシデント推移と考察

*アクシデントレポートとして報告があがった件数について

檜原では年々増えてきており、今年度に関しては7月時点ですでに8件となっています。

アクシデントには至っていない『ヒヤリハット』も目立ち、見失いの多くは『いつも〇〇しているから大丈夫』という思い込みが原因と考えられます。

鷹峯（醍醐を含む）では H26 年～H28 年の 3 年連続 28 件と同じ件数が続いています。

内容については物損、紛失が多く、特に夏場のプールにおいて、衣類やポーチの紛失、また自宅での支援中に家具や備品を落したりして起こる破損が多く報告されています。

その他のアクシデントとしては『遅刻』が多く、体調不良や交通事情が原因としてあげられています。

また、長く支援をさせていただいている方に多いのが、支援時間の変更による勘違いです。やはり毎週、毎月同じ時間で支援を行っている、決まった時間と思いつむ事があるようです。

*リスクマネジメントについて

リスクマネジメントとは、リスクを組織的に管理し、事故の予防や対策のための手法のことですが、対策をとっていても事故は起こるものです。

しかし、事故が起こった時にどういった対応をとるか、それにより結果も変わってきます。

いつも皆さんにヒヤリハットやアクシデントレポートを提出していただいています。事故を予防するための報告で、始末書ではないことを覚えていてください。

2. 危険予測～写真を見て検討～

今回、グループワークでは支援の場面を想定した写真をみてもらい、どういったリスクが潜んでいるのか討議してもらいました。以下、議題となった写真と、考えられるリスクの内容です。

写真① (ヘルパー：ピンクの服／利用者：黒の服)



*考えられるリスク

- ・ 支援者が前に出すぎており、利用者から視線を外している。
→見失う危険性がある。
- ・ 利用者を放っている状態。利用者の危険な行動に対して止めることができない。
→車道に飛び出したら車にひかれるかもしれない
- ・ ヘルパーが車道の方を歩き過ぎているため利用者がつられて、
車道に出てしまうかもしれない

写真② (ヘルパー：ピンクの服／利用者：黒の服)



*考えられるリスク

- ・ 利用者が車道側を歩いており、車との接触が考えられる
→ヘルパーは車道側を歩くこと、可能なら手つなぎで歩く
- ・ ヘルパーは利用者を見ていない
- ・ 利用者の鞆は手で持ってもらいより、腰に掛けてもらうかヘルパーが持った方が良い
→走り出し時の制止や、置き忘れの防止のため

写真③ (ヘルパー：ピンクの服/利用者：黒の服)



***考えられるリスク**

- ・利用者が前に歩き過ぎている。
→車道や交差点での飛び出し時、制止できない
- ・ヘルパーが利用者を見ていない。
→転倒しかけても、助けることが出来ない

写真④ (ヘルパー：ピンクの服/利用者：黒の服)



***考えられるリスク**

- ・利用者の肘が外に出すぎているため内側に納めていただければ良い。
- ・利用者の左足がフットレストから落ちている
右足も落ちかけている。
→足の車イスへの巻き込みや、地面に引きずり怪我をする危険性がある
- ※ヘルパーの目線が遠くを見ており気づけていない。
- ・ヘルパーの靴がサンダルで危険であるし、仕事をする者として不適切な服装である。

写真⑤ (ヘルパー：ピンクの服/利用者：黒の服)



*考えられるリスク

- ・利用者とバイクの位置が近い、肘が出ている。
→バイクとの接触の危険性がある
- ・ヘルパーの視線が下を向いている。
→後方から車がきており、気づいていないのでは？
- ・溝のふたの上を走行している。
→脱輪・転倒の危険性がある

写真⑥ (ヘルパー：ピンクの服/利用者：黒の服)



*考えられるリスク

- ・ヘルパーが利用者を見ていない。
→後ろから利用者の表情は見えないので、利用者への適宜声かけ等で様子を確認する。
- ・フットレストに乗っている足が手前過ぎではないか？
- ・グレーチングの上を走行している。
→脱輪の危険性がある。必要であれば編み目に対して斜めに走行すればリスクは減るのでは。

写真⑦



*考えられるリスク

- ・利用者が立位を保てるのであれば、靴下のままでは滑りやすいのでは？
- ・ヘルパーも上履きではなく介助に適した靴をはく
- ・フットレストより外側に足があるので移乗時に引っかかる可能性がある
- ・可能ならヘルパーの肩に利用者さんの腕を回してもらおう
- ・ヘルパーの体が利用者の体と離れており、腰の位置が高い
→転落やヘルパーの腰痛の危険性がある

*まとめ

各リスクに対して、具体的な解決策というのは難しいですが、同じ事故を繰り返すことは予防したいです。今回話し合ったケースと違うことが起こっても、研修で話し合ったことを参考に、リスクの予防をしてもらえたらと思います。また、難しいケースは担当の職員と話し合いをして、居宅全体で少しでもリスクを予防できるようにしていきたいです。

参加者ヘルパーの感想（一部のご紹介です）

- ・アクシデントの予測について学ぶことができて良かったです
- ・実際に支援の現場で起こることを話し合えて良かった。
- ・自分の支援を改めて見直す良い機会になった。